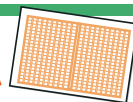




▲▼第24回表彰式(写真提供:新潟水俣病共闘会議)



# 第25回 新潟水俣環境賞作文コンクール



県内小・中学校の児童・生徒の皆さんへ

の作品を募集します!

募集予定 2023年10月1日~2024年2月29日

発表予定 2024年6月

新潟水俣病や新潟県内の自然について思ったこと、身の回りの環境について考えたことや体験して感じたことなどを書いてください。皆さんの応募をおまちしています。

- 例えば、「新潟水俣病」「住んでいる地域の環境」「新潟の自然(森林・川・湖沼・海と環境問題)」「総合学習等で取り組んでいる環境問題」「水の安全、食の安全」について、体験したことや気づいたこと、考えたことを書いてください。
- 作文の応募はA4版400字詰め原稿用紙で、小学校1・2年生は600字~800字、小学校3・4年生は800字~1000字、小学校5・6年生は1000字~1200字、中学校1・2・3年生は1200字~1600字です。
- 優秀賞者には表彰状と図書カード1万円分を贈ります。佳作者には表彰状と図書カード3千円分を贈ります。
- 応募していただいた方全員に参加賞を贈呈します。



お問合せ先 ●新潟水俣病被害者の会 TEL025-281-2466 / FAX025-281-8101  
(作文の送付先 ●〒950-0965 新潟市中央区新光町 6-2 勤労福祉会館 3 階 新潟水俣病被害者の会)



## 第24回

### 受賞作品発表

第24回作文コンクールの授賞式が開催されました!



このコンクールは、新潟水俣病被害者の「こんな苦しみは自分たちだけでたくさんだ。子や孫に同じ苦しみを味わわせてはならない」という切なる思いから、次代を担う子どもたちに身の回りの環境に関心をもってもらうと、新潟県内の小・中学生を対象に毎年開催されています。

### 優秀賞受賞者と作品テーマ

#### ◆小学校5・6年生の部



#### ◆小学校1・2年生の部

「きれいな水を守るために」



奥山理央さん

(五泉市立五泉小学校2年)

※作文の全文は、「阿賀野川え〜とこだ流域通信」に掲載しておりますので、ぜひご覧ください!

「新潟の環境をきれいに保つ」「新潟の自然」



小林莉々さん

(上越市立国府小学校5年)



高原望さん

(上越市立国府小学校5年)

「気にかけるだけで救える人がいる」「言葉でどれかの支えになること」



山田結菜さん

(上越市立国府小学校5年)



加藤結心さん

(新発田市立外ヶ輪小学校5年)

主催:新潟水俣病被害者の会、新潟水俣病阿賀野患者会 後援:新潟県・県教育委員会、新潟市・新潟市教育委員会、阿賀野市・阿賀野市教育委員会、五泉市・五泉市教育委員会、阿賀町・阿賀町教育委員会、長岡市・長岡市教育委員会、上越市・上越市教育委員会、三条市・三条市教育委員会、柏崎市・柏崎市教育委員会、新潟市・新潟市教育委員会、小千谷市・小千谷市教育委員会、加茂市・加茂市教育委員会、十日町市・十日町市教育委員会、見附市・見附市教育委員会、村上市・村上市教育委員会、燕市・燕市教育委員会、糸魚川市・糸魚川市教育委員会、妙高市・妙高市教育委員会、佐渡市・佐渡市教育委員会、魚沼市・魚沼市教育委員会、南魚沼市・南魚沼市教育委員会、胎内市・胎内市教育委員会、聖籠町・聖籠町教育委員会、弥彦村・弥彦村教育委員会、田上町・田上町教育委員会、出雲崎町・出雲崎町教育委員会、湯沢町・湯沢町教育委員会、津南町・津南町教育委員会、刈羽村・刈羽村教育委員会、関川村・関川村教育委員会、粟島浦村・粟島浦村教育委員会、新潟日報社、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、NHK新潟放送局、BS1新潟放送、N・S・T新潟総合テレビ、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、FM新潟77.5、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新潟、エフエム山形、FMゆきぐに、雪国新聞、燕三条エフエム放送、エフエム山形山ほほがラジオ、エフエムとおかまち

## 「阿賀野川え〜とこだプロジェクト」とは？

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(略称FM事業)と言い、阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」をつむぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

### 阿賀野川え〜とこだ! 憲章(事業理念)

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。(阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会)

## 編集後記

第37号はいかがでしたでしょうか? 新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置づけられたことから、FM事業でも十分な感染対策を実施しつつ、以前の規模のようなイベントやツアーを進行することになりました。麒麟山酒造(株)の酒蔵見学もありますので、ご都合がよろしい方は、ぜひお気軽にご参加ください☆ 2~3月発行予定の次号もご期待ください!



### 今号表紙の写真「流域上流のブナ林」

阿賀野川最大の支流・常浪(とこなみ)川の上流域には、清流を生み出すブナ林などの森林が広がっている。写真は、地元の小学生の学習フィールドとしても活用されている、常浪川上流域のブナ林を撮影した一枚。

## 阿賀野川え〜とこだより 第37号

発行:新潟県(※環境省補助事業) 発行日:2023年8月10日  
企画編集:一般社団法人あがのがわ環境学会(〒959-2221 阿賀野市保田 3866-1)

TEL.&FAX. 0250-68-5424  
aganogawa@niigata.email.ne.jp

## 阿賀野川え〜とこだ!流域通信

<https://aganogawa.info/>

// え〜とこだよりのバックナンバーも見れます! //

